

自 己 評 価 表

愛媛県立八幡浜高等学校 定時制
学 校 番 号 (34)

教育方針	1 校訓「勉学 礼儀 健康 融和 奉仕」を基調として、国家社会の有為な形成者としての資質を養う。 2 社会の変化に柔軟に対応し、自らの進路を切り開く確かな学力を育成する。 3 個性を尊重し、国際的視野を持った心豊かな人間を育成する。 4 安全・安心で充実した教育環境のもと、健康的に社会で生きる力を育む。	重点目標	「随処作主」（随処に主と作す）－誇りと自信を持ち積極的にチャレンジする－ 1 学校生活全般で、他を思いやる豊かな心と社会への対応力を育てる。 2 就労を奨励し、勤労観、職業観、社会性を育て、進路実現を支援する。 3 個々の能力に応じた主体的で対話的な深い学びを通して、積極的に挑戦し探求する生徒を育成する。
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	確かな学力の育成	個々の生徒の習熟度把握を前提に基礎・基本を重視した授業を実践し、学校評価アンケートで該当項目の4.5以上を目指す。	A	教員評価は4.7であり、教材の工夫・改善に努め、指導法の研究が実践できている。	習熟度の低い生徒に対する基礎・基本を重視した授業も実践する。
		生徒が主体的に学習できるよう指導方法を研究するとともに、興味・関心等の実態に即して教材の工夫・改善に努め、生徒による授業評価アンケート総平均で4.5以上を目指す。	B	生徒の授業に対する評価は4.5程度であるが、学習意欲や内容の定着度に対する評価は4.2であった。	授業進度を再確認し、個々の生徒の学習意欲を高めることができるような授業内容となるよう工夫・改善に努める。
	言語能力の育成	生徒に自発的に発表させるなど、コミュニケーション能力を育て、主体的に取り組める授業を実践し、学校評価アンケートで該当項目の4.5以上を目指す。	C	教員評価は4.0と改善され、一応の成果があったと考えるが、生徒の評価は昨年度3.1から3.4と高いとは言えない。	コミュニケーションを図ることが難しい生徒が多いが、双方向の授業を実践し、全ての生徒の発言機会を増やす。
特別活動	学校行事、各種大会への積極的な参加	集団への所属感や連帯感を養いながら各種学校行事、定通制総合体育大会や生活体験発表大会に主体的に参加できる生徒の育成を目指す。	B	各種大会に、積極的に参加することができた。大会までの過程においても、主体的に活動できる生徒が増えた。	次年度も、継続して取り組み、さらにより積極的・主体的に活動できるように工夫したい。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	5分前行動を定着させ、規則正しい学校生活を送らせる。	B	各教科担任の声掛け等により、次の授業の準備や切り替えのできる生徒が増えた。	5分前行動の指導を継続するとともに、規則正しく、落ち着いて授業を受けることのできる環境作りに努めたい。
		挨拶を交わすことの必要性や大切さを理解させながら、場に応じた挨拶を定着させる。	B	学年が上がるごとに、日常的に挨拶ができる生徒が増えてきている。	学校内での挨拶にとどまらず、学校外での挨拶や、入学時からの継続した挨拶指導をしていく。
	生徒理解の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A：6回以上 B：5回 C：4回 D：3回 E：2回以下	B	学期ごとの面談や、ホームルーム担任による面談を年5回以上実施することができた。	これまでの指導を継続しながら、ホームルーム担任だけでなく、教員間で情報を共有して生徒理解に努めたい。
	交通安全指導の充実	交通ルールの遵守やマナーの向上により、事故0・違反0を目指す。	B	交通事故0、交通違反0を達成することができた。	次年度も、交通安全教室など、外部の講演の活用や日々の交通指導を通して、違反0に努める。
進路指導	生徒の適性と進路希望を踏まえた進路指導の充実	進路希望調査や学びの基礎診断（八定BASIC）により生徒理解を深める。また、様々な進路情報を適宜提供し、進路への関心を高める。	B	全学年に対してパンフレット配布等で情報提供を行い、進路への関心を高められた。	継続的な情報提供と、就職に関する指導・支援を強化する。
	生徒の希望進路の実現	保護者やハローワークとの連携を深めながら、生徒の就労を支援し、就労者を増やす。進路に対する意識啓発を行い、進路決定100%を実現する。	B	就労率は5割で、前年よりも低い。卒業予定者の進路については、保護者、ハローワーク、本校全日制と連携を取って、本人の希望に沿った進路実現に向けて取り組んでいる。	就労への意欲を持たせる意識啓発を行う。保護者、ハローワーク、本校全日制や定時制職員間の連携を更に図る

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
人権・同和教育	人権意識の高揚	研修に積極的に参加し、得た情報を活用して生徒の人権意識向上を図るとともに、自身の指導力向上に努める。	B	校内外の研修に積極的に参加し、得た情報を生徒への人権・同和教育に生かすことができた。校外研修の内容を職員全体へ還元する機会が少なかった。	教職員間で研修等で得た情報の共有を図る。授業やホームルーム活動の場面以外でも、生徒の人権意識を高められるように取組を行う。
保健管理	健康意識の向上	手洗い、うがいや手指消毒など感染症対策を徹底させ、健康への意識向上を図る。 養護教諭と連携して、「保健だより」を発行し、健康の保持増進を図る。	B	日々の健康観察や手指消毒を実施し、感染症対策の徹底ができた。 健康教育の講演や実習を行うことで、食と健康について理解を深めることができた。	養護教諭と連携を図り、生徒が健康面等を相談しやすい環境づくりを行う。 食と健康について理解を深めて、自身の食生活について見直し、健康について考えさせる。
安全管理	防災意識の向上と緊急時の対応	各学期の防災避難訓練を通して、緊急時の対応を周知徹底するとともに、定期的に防災関係の情報を提供する。	A	事前研修を含めたAED講習会に参加して、普通救命講習修了証をいただくことができた。	訓練の意義を理解させるとともに、学校だけでなく、各家庭や地域等での防災対策についても考えて行動できるようにさせる。
特別支援教育	校内研修会の実施	各種研修会報告で得た情報を全教員が共有して特別支援教育に対する理解を深め、実践力を高める。	B	特別支援教育に関する情報を教職員間で共有し、理解を深めることができた。	各種研修会で得た情報を全教職員で共有して、特別支援教育に対する理解を更に深める。
	生徒の実態把握及び関係諸機関との連携	少人数のメリットを生かし、生徒一人ひとりの実態把握を早期に行う。関係諸機関と連携して生徒の実態に適した支援の実践に努める。	B	生徒の状況について教職員間で情報を共有し、外部機関とも連携して支援の実践に努めることができた。	関係諸機関との連携を更に深め、生徒の実態に応じた支援に努める。
研修	教職員の資質の向上	年1回以上、校内外の各種研修会に参加し、研修内容を教員間で共有する。また、ICT機器を積極的に用い、ICT活用能力の向上を図る。	B	各種研修会へ参加し、資質の向上に努めることができた。初めての試みである公開授業を実施して、外部の方々の意見を聞くことができた。	より質の高い教育が行えるよう、各種研修会への積極的な参加を促す。 ICT機器を用いた学習活動の研究を進め、授業改善に役立てる。
保護者との連携	広報活動の充実	「八定だより」や学校ホームページを通じて、教育活動に関する情報を提供する。	A	毎月「八定だより」を発行し、随時ホームページを更新して、情報を提供することができた。	「八定だより」とホームページの内容をより充実したものにする。
		普段から保護者との情報交換に努める。また、保護者懇談会や家庭訪問、学校行事等を通して学校と家庭の連携を図る。	B	家庭訪問と保護者懇談会を着実に実施するとともに、保護者が来校する機会を増やした。また、普段も必要に応じて保護者と情報交換することができた。	普段から保護者との連絡を密にし、学校と家庭の連携に努める。また、学校行事等の案内を早めに行い、保護者の参加を促す。
業務改善	適切な勤務時間と休暇取得による働きやすい職場づくり	休憩時間を確保したうえで教職員の勤務時間を守り、休暇をとりやすい環境をつくる。全教職員が年間7日以上休暇を取得し、心身のリフレッシュに努める。	A	休暇を取りやすい雰囲気を作り、全教職員が7日以上休暇を取得することができた。	長期休業中の休暇に加え、平日の時間休暇を取りやすい状況及び雰囲気づくりに努める。
	職場環境の整備	健康相談等を定期的に行い、業務の均等化や教職員の肉体的・精神的疲労の軽減を図る。職員室の整理整頓に努め、毎月1日の職員室清掃日进行。	B	互いに協力して業務を行うことができたが、職員室清掃を実施できない月があった。	年間行事において、職員室清掃日を予定しておく。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。